

藤岡啓介の翻訳玉手箱 第3篇
公開講座 プロになるぞ！！ 第14回
コメント一覧

理由があってか

「……か」と表現しましたが、この「か」は推量の副助詞です。実際に翻訳の文章で使わないとしても、原文を瞬間的に日本語に移すときの発想で用いています。わずか平仮名1文字の「か」ですが、すごく大切な言葉です。

若い田舎の女性

同じアメリカ生まれの娘

自分の料理から疑いぶかくナオミを見上げ

どこかおかしいな。彼はナオミを見上げた、は良いのだが、「自分の料理から」の位置が悪かったかな。

気がしたように

……ように思えたのですが。「気がした」という語法だと、誰がこの動詞の主語なのかしら？

同国の

「同郷」としたかったかもしれないな。でも、郷里というよりは国が違うのだから、ここは「同国」、こう悩んだのでしょう。でも、「自分と同じアメリカ人であるナオミ」という言い方もありますよ。

皿越しに

？

眉をしかめて

眠り姫は「しかめ面」として逃げたけど、「顰める」とは、「顔や額にしわを寄せる」ことで、「眉をしかめる」は誤用ですよ。

「できもしないこと」

一見可能であるように思えますが、言語体系がまったく異なる二言語で「逐語」は不可能ですね。

うつろな

「うつろな目」だと、glassyになるかも。

好きになった。

少し昔の翻訳だったら「ナオミに一目ぼれしてしまった」とするでしょう。携帯の画面を見ている時代に「惚れる、恋する」という言葉は似合わないな。悲しいけど。

ひそかに見ていて、好奇心を抱きながら、けがをしている若い男性の手を意地悪そうに注意ぶかくじろじろと見ているようすを
ここの文章のもって行き方を考えなければ。

絆創膏が巻かれている
動詞strap upが彷徨ったな。

ひさしぶりに
そう長いこと待たずに、すぐに。

、
この読点、ここがよかったかな？

農耕を自分のものにしたという
過ちを犯したのは息子たち、それを直接息子に言わないで、間接的にジエイゴに依っている。この内容を捉えなければ。「文節区切り対訳」をしっかりと応用してください。

とくに羊と牛の間違った経営をそれに風刺的にあてはめたとき、
こども上と同様。「文節区切り対訳」で考えると、だれが、なにを、何したか、しっかりと、簡明に理解できます。たんに語句の誤訳ではないですね。

私か
私が……間もなく気づいた。おかしいな。

ことに
突飛な行動に出て、としたいな。

ナオミが静かに軽蔑して干渉することに目を向けていました
文意不明だな。「不名誉の原因」というのが変なんだな。「ナオミの干渉」を軽蔑する(けなす)眼で、と考えないかな。disparagementでは動詞の語義をみると理解しやすい。

潮時を見計らってきっぱりと割って入り、
なんだか勇ましいな。ナオミが乙女なので、どこかふんわりと訳したいな。

暗くて
陰気で

陰で、仕事や礼儀正しさを意識して行動するとき
変だな。「文節区切り対訳」ができていないな。

ことに驚き
？

患づき、せめぎあっている
語彙が豊かであるのは結構だけど、もっと素直な発想がいいな。